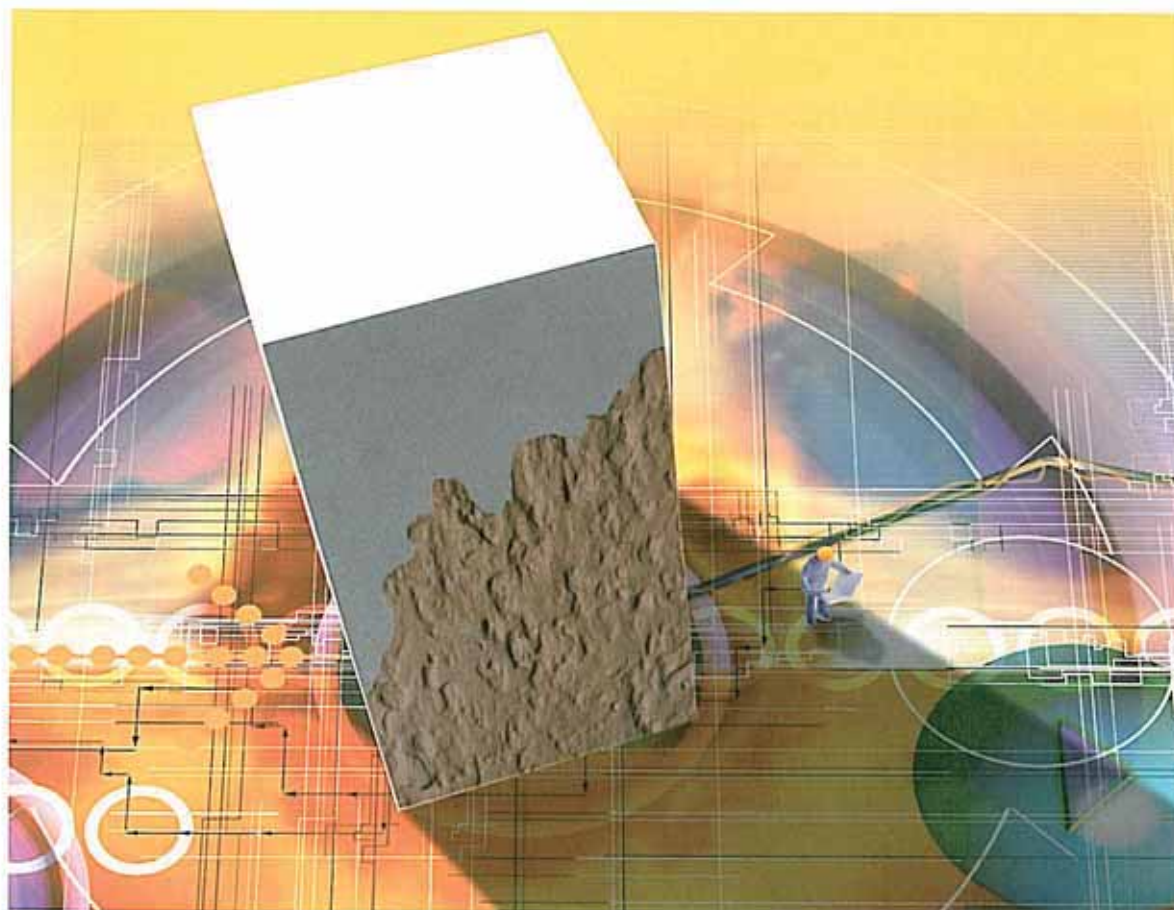




カチオン性アクリルポリマーセメントモルタル  
**アロンカチオクリート<sup>®</sup>**

2010年11月版



東亜合成株式会社

## 目 次

1.アロンカチオクリートとは	1
2.アロンカチオクリートの用途	2
3.アロンカチオクリートの種類と材料性状	3
4.アロンカチオクリートの標準配合	4
5.アロンカチオクリートの施工方法	5
6.アロンカチオクリートの性能	6
●練り上がり性状	6
●硬化性能	6
●アロンカチオクリートベースのJIS A 6203 (セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂)による評価結果	7
●アロンカチオクリートのJIS A 6916(建築用下地調整塗材)による評価結果	7
●各種下地に対する接着性(アロンカチオクリートF-0)	8
●アロンカチオクリートベースの吸水調整材としての評価結果	8
●鉄筋に対する防せい性能(アロンカチオクリートF-3)	8
●中性化防止性能	8
7.注意事項	9
8.使用材料一覧	10

## 1. アロンカチオクリートとは

アクリルポリマーに関する技術力を結集して開発したカチオン性アクリルエマルジョン「アロンカチオクリートベース」と各種用途別に既調合した粉体「アロンカチオクリートフィラー」を練混ぜることによって、優れた特性を発揮するポリマーセメントモルタルであり、普通セメントモルタルや他のポリマーセメントモルタルにない優れた諸特性を発揮します。

カチオン性に帯電した荷電粒子からなるアロンカチオクリートベースは、耐候性、耐水性に優れたアクリルポリマーの特長とカチオン性であるセメントや砂との混和性及び下地との接着性を併せもつため、セメントモルタル用混和材として最も好適な材料であると言えます。

アロンカチオクリートは、建築・土木構築物の下地調整や補修用のみではなく、その優れた接着性や水密性、気密性及び鉄に対する防せい効果により、鉄筋コンクリート構造物の中酸化防止や鉄部の防せい保護用に使用できます。

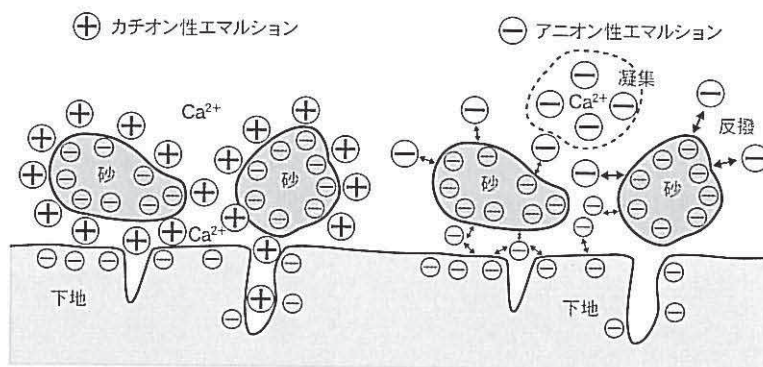
### 〈なぜカチオン性エマルジョンが優れているのか〉

モルタル、コンクリート、砂、金属類など自然界に存在するものはほとんどがマイナスに帯電しているといわれています。

従来よりセメント混和用に使用されてきたアニオン性エマルジョンの場合、粒子はアニオン、即ちマイナスに帯電しており荷電粒子相互の静電的反撥によって、粒子間の接近が妨げられるため、十分な接着力が得られませんでした。

これに対しカチオン性エマルジョンの場合は、プラスとマイナス荷電粒子相互の引き合いにより完全な密着状態が形成され、これにより耐久性に優れた高い接着力が得られます。

アニオン性エマルジョンはセメントの水和反応の過程で溶出する多価金属イオン( $\text{Ca}^{2+}$ 等)により凝集し、モルタル硬化体組織内に均一に分散しないことがあります。カチオン性エマルジョンは多価金属イオンに対し極めて安定であり、良好な分散状態が得られます。図はこれをモデル的に示したものです。



このようにカチオン性エマルジョンはセメントモルタル中に均一に分散し、セメントゲルや砂と強固に結合するために密実な組織を形成し、セメントモルタルに優れた性能を付与することができます。



## 2. アロンカチオクリートの用途

### (1) 下地調整用途

鉄筋コンクリート構造物、ALCパネル、プレキャストコンクリート部材の下地調整、不陸調整や各種仕上材、防水材の下地造りに

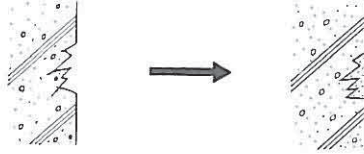
### (2) 接着補助材用途

各種建築・土木部材、各種防水材や仕上材の良好な接着補助材として

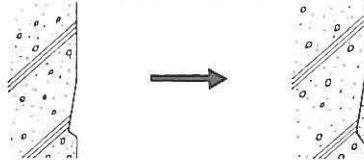
### (3) 保護用途

鉄筋の防せい保護や鉄筋コンクリート構造物の中性化防止に

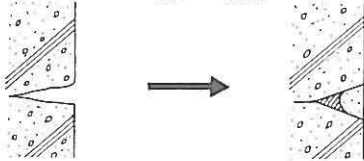
コンクリート等の巣穴(ジャンカ)補修



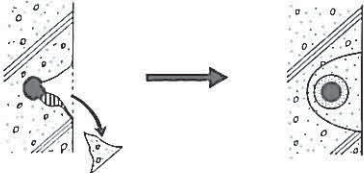
目違い不陸調整



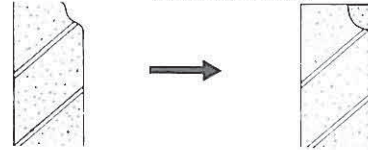
ひび割れの補修



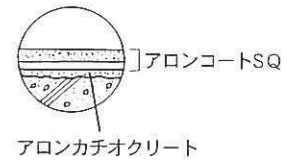
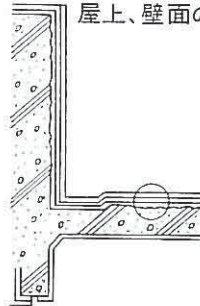
鉄筋露出の補修



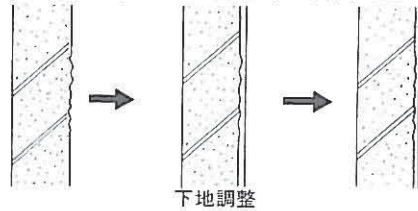
欠損箇所の補修



屋上、壁面の不陸、下地調整



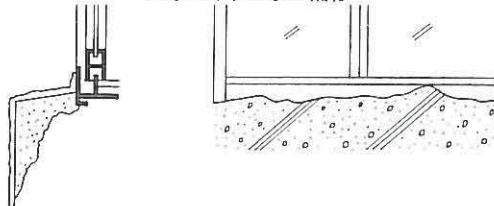
ALCパネル・PC部材等の表面調整



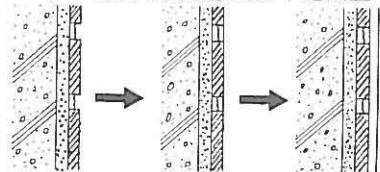
アロンウォール  
クリスタルウォールなど

下地調整

サッシ回り等の補修

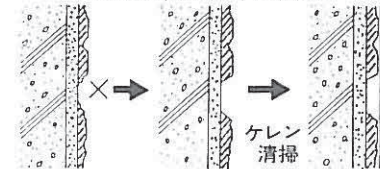


タイル張り面改修時の下地調整



アロンウォール  
クリスタルウォールなど

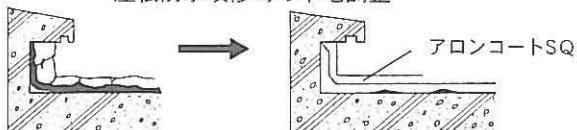
外壁改修時の下地調整



アロンウォール  
クリスタルウォールなど

複層模様壁面、スタッコ壁、吹付けタイル下地等の  
欠損部の下地調整

屋根防水改修時の下地調整



アロンコートSQ

### 3. アロンカチオクリートの種類と材料性状

#### ●アロンカチオクリートの種類

用途	種類	適用例	1回当たりの塗り厚	施工方法
下地調整	アロンカチオクリートF-0	ALCパネル、コンクリートの下地調整(しごき塗り)など	3mm (6kg/m <sup>2</sup> ) 以下	こて塗り、吹付け
	アロンカチオクリートF-1	コンクリート、タイル張り面の下地調整(薄塗り)など	3mm (6kg/m <sup>2</sup> ) 以下	こて塗り
	アロンカチオクリートF-2	コンクリートの下地調整(厚塗り)、比較的浅い凹凸部の修復など	5mm (10kg/m <sup>2</sup> ) 以下	こて塗り
	アロンカチオクリートF-3	コンクリートの下地調整(しごき塗り)、鉄筋の防錆処理など	3mm (6kg/m <sup>2</sup> ) 以下	こて塗り、はけ塗り、ローラー塗り
断面修復	アロンカチオクリートF-F	小断面修復、ハツリ部への充填	5~30mm	こて塗り
	アロンカチオクリートF-K	小断面修復、ハツリ部への充填(速硬化タイプ)	10~50mm	こて塗り

※アロンカチオクリートフィラーを使用する場合には、アロンカチオクリートベースとの組合せにてご使用下さい。

#### ●アロンカチオクリートベースの性状

外 観	乳白色液体
主 成 分	カチオン性アクリル樹脂
粘 度 ( mPa · s )	10~50
比 重	1.02 ± 0.01
固 形 分 (%)	約45
最低造膜温度(°C)	0

#### ●アロンカチオクリートフィラーの性状

種類	主 成 分	かさ比重
アロンカチオクリートフィラーF-0	既調合セメントフィラー	1.2
アロンカチオクリートフィラーF-1	既調合セメントフィラー、ガラス繊維	1.2
アロンカチオクリートフィラーF-2	既調合セメントフィラー	1.5
アロンカチオクリートフィラーF-3	既調合セメントフィラー	1.1
アロンカチオクリートフィラーF-F	既調合セメントフィラー、軽量骨材	1.0
アロンカチオクリートフィラーF-K	既調合セメントフィラー、軽量骨材、ガラス繊維	0.9



## 4. アロンカチオクリートの標準配合

### ●吸水調整材

アロンカチオクリートベースを吸水調整材（ドライアウト防止など）として使用する場合には、以下の配合に調製・塗布し、乾燥後にアロンカチオクリートを塗布して下さい。

アロンカチオクリートベース	清 水	標準使用量
1 kg	2 ~ 4 kg	0.15kg/m <sup>2</sup>

### ●標準配合

用途	種 類	施工方法	標準配合				練り上がり量	施 工 面 積 (目安)
			練混ぜ量	アロンカチオクリート フィラー	アロンカチオクリート ベース	清水 <sup>※</sup> (目安)		
下 地 調 整	アロン カチオクリート F-0	こて塗り	1袋当たり	 × 1袋(20kg)	 × 1/8缶(2kg)	2.5kg	24.5kg(12.2ℓ)	約4m <sup>2</sup>
		吹付け				4.5kg	26.5kg(13.2ℓ)	
		こて塗り	1缶当たり	 × 8袋(160kg)	 × 1缶(16kg)	20.0kg	196.0kg(98.0ℓ)	約32m <sup>2</sup>
		吹付け				36.0kg	212.0kg(106.0ℓ)	
	アロン カチオクリート F-1	こて塗り	1袋当たり	 × 1袋(20kg)	 × 1/8缶(2kg)	2.5kg	24.5kg(12.7ℓ)	約4m <sup>2</sup>
		こて塗り	1缶当たり	 × 8袋(160kg)	 × 1缶(16kg)	20.0kg	196.0kg (101.6ℓ)	約32m <sup>2</sup>
	アロン カチオクリート F-2	こて塗り	1袋当たり	 × 1袋(20kg)	 × 1/8缶(2kg)	1.0kg	23.0kg(11.3ℓ)	約2m <sup>2</sup>
		こて塗り	1缶当たり	 × 8袋(160kg)	 × 1缶(16kg)	8.0kg	184.0kg(90.6ℓ)	約16m <sup>2</sup>
	アロン カチオクリート F-3	こて塗り	1袋当たり	 × 1袋(20kg)	 × 1/8缶(2kg)	3.0kg	25.0kg(12.3ℓ)	約4m <sup>2</sup>
		はけ・ローラー塗り				4.0kg	26.0kg(12.8ℓ)	
		こて塗り	1缶当たり	 × 8袋(160kg)	 × 1缶(16kg)	24.0kg	200.0kg(98.5ℓ)	約32m <sup>2</sup>
		はけ・ローラー塗り				32.0kg	208.0kg(102.5ℓ)	
断 面 修 復	アロン カチオクリート F-F	こて塗り	1袋当たり	 × 1袋(15kg)	 × 1/16缶(1kg)	2.0kg	18.0kg(10.8ℓ)	約1m <sup>2</sup>
		こて塗り	1缶当たり	 × 16袋(240kg)	 × 1缶(16kg)	32.0kg	288.0kg (173.5ℓ)	約16m <sup>2</sup>
	アロン カチオクリート F-K	こて塗り	1袋当たり	 × 1袋(15kg)	 × 1/8缶(2kg)	1.7kg	18.7kg(12.4ℓ)	約1m <sup>2</sup>
		こて塗り	1缶当たり	 × 8袋(120kg)	 × 1缶(16kg)	13.6kg	149.6kg(99.1ℓ)	約8m <sup>2</sup>

※施工面積は、各フィラー配合ごとに設定している最大厚みで計算しています。なお、F-FとF-Kは10mmで計算しています。

※アロンカチオクリートの練混ぜは清水（目安）を基準に、アロンカチオクリートF-0、F-1、F-2、F-3では清水（目安）の±20%、アロンカチオクリートF-F、F-Kでは清水（目安）の±10%を目処に液性を調整してご使用下さい。

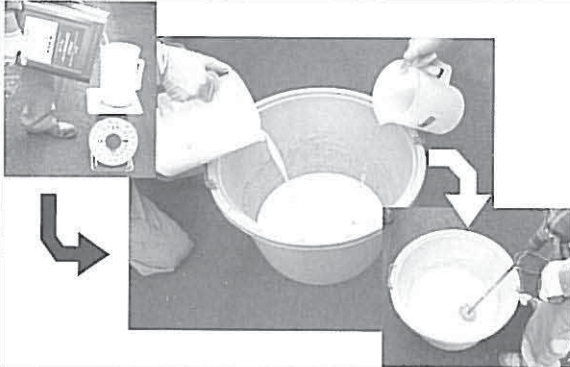


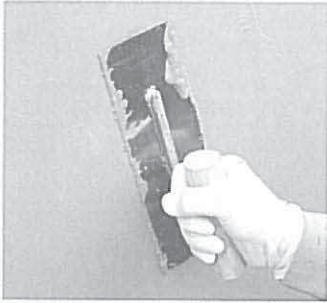
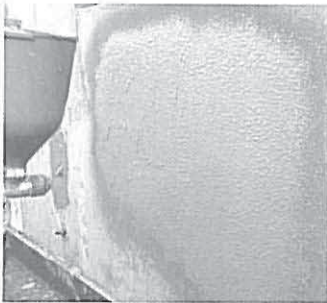
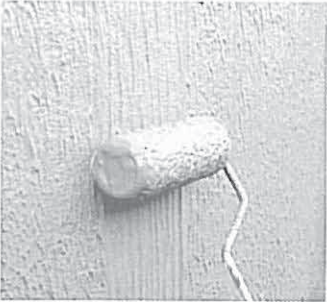
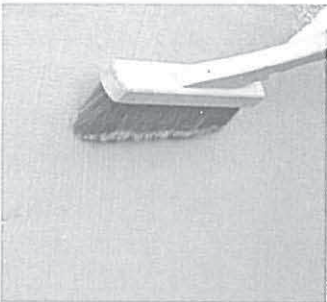
### ●現地配合

用 途	施工方法	標 準 配 合				
		セメント	細 骨 材	混 和 剤	アロンカチオクリート ベース	水
壁 面 用	こて塗り	50kg(2袋)	125~150kg	例) hiメトローズ 45g/袋×1~2袋	 × 5/8缶(10kg)	適宜
床 面 用						

※現地配合の場合は、アロンカチオクリートベースとセメント、細骨材（川砂、けい砂など、粒径は使用目的による）、添加剤（セルロール系混和剤など）などをご手配下さい。

※1回当たりの塗り厚は5mm(10kg/m<sup>2</sup>)以下として下さい。

## 5. アロンカチオクリートの施工方法

1	アロンカチオクリートベースと希釈水の計量		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 丸形容器に所定量のアロンカチオクリートベースと清水を入れ、攪拌混合する。</li> <li>○ 練混ぜ容器は丸缶をご使用下さい。</li> </ul>
2	アロンカチオクリートフィラーの投入と練混ぜ攪拌		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 希釈液を攪拌しながら所定のアロンカチオクリートフィラーを投入して下さい。</li> <li>○ 金ごて施工の場合は手練りあるいはモルタルミキサーで低速攪拌して下さい。</li> <li>○ 現地配合の場合はセメント、珪砂または川砂、添加剤はあらかじめ別容器で空練りしておいて下さい。</li> </ul>
3	軟度調整		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施工に適した軟度調整は清水の目安量を増減して調整して下さい。</li> </ul>
4	施 工	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>こて塗り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>吹付け</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ローラー塗り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>はけ塗り</p> </div> </div>	



## 6. アロンカチオクリートの性能

### ●練り上がり性状

		F-0	F-1	F-2	F-3	F-F	F-K	試験方法	
軟度変化 <sup>*1)</sup> (%)	5°C	6.1	4.5	8.5	6.2	8.0	3.5	JIS A 6916	
	20°C	8.2	5.2	9.9	8.5	14.3	4.3		
	35°C	9.0	6.5	12.0	10.2	26.2	固化		
単位容積質量 (kg / ℓ)		2.00	1.93	2.03	2.03	1.66	1.51	JIS A 1171	
硬化比重		1.95	1.91	1.97	1.95	1.64	1.48	28日 20°C、60%養生	
硬化時間 <sup>*2)</sup> (時間-分)	5°C	φ 3 mm	10-30	11-00	10-30	7-00	8-30	3-25	JIS A 1171
		φ 1 mm	14-00	14-30	13-30	8-50	12-10	3-50	
	20°C	φ 3 mm	7-00	7-00	7-00	4-50	5-00	1-50	
		φ 1 mm	9-00	9-30	9-30	6-00	8-00	2-20	

※1) 練混ぜ直後から60分後までのフロー値の変化率を示す。

※2) φ 3mm針硬化時間は、硬化途中の段階で指で押すと容易にへこむ状態を、φ 1mm針硬化時間は、初期硬化がほぼ終了した時点を示す。

### ●硬化性能

	材 齢	F-0	F-1	F-2	F-3	F-F	F-K	セメント モルタル	試験方法
曲 げ 強 さ (N/mm <sup>2</sup> )	3時間	—	—	—	—	—	1.7	—	JIS A 6916 (20°C、 60%養生)
	6時間	—	—	—	—	—	3.9	—	
	12時間	—	—	—	—	—	4.8	—	
	1日	5.1	4.2	2.3	2.3	2.0	5.3	1.1	
	3日	6.3	6.8	5.2	5.2	4.2	6.7	3.0	
	7日	7.6	8.5	7.3	7.3	8.1	7.0	5.2	
	28日	11.6	13.0	14.0	9.7	9.3	8.5	6.2	
圧 縮 強 さ (N/mm <sup>2</sup> )	3時間	—	—	—	—	—	4.8	—	JIS A 6916 (20°C、 60%養生)
	6時間	—	—	—	—	—	10.4	—	
	12時間	—	—	—	—	—	16.2	—	
	1日	14.3	11.2	13.4	11.0	6.0	21.8	7.2	
	3日	26.8	27.7	28.4	21.4	16.6	24.3	8.2	
	7日	35.8	33.8	31.6	34.2	24.2	26.0	14.4	
	28日	53.9	51.8	50.6	45.5	30.1	30.8	25.8	
接 着 強 さ (N/mm <sup>2</sup> )	3時間	—	—	—	—	—	0.3(F-K)	—	JIS A 6916 (20°C、 60%養生)
	6時間	—	—	—	—	—	1.0(F-K)	—	
	12時間	—	—	—	—	—	1.3(F-K)	—	
	1日	1.3(F-0)	1.4(F-1)	1.5(F-2)	1.0(F-3)	0.9(F-F)	1.7(下地)	0.4(Mo)	
	3日	1.6(下地)	1.5(下地)	1.8(下地)	1.7(下地)	1.2(F-F)	1.8(下地)	0.8(Mo)	
	7日	1.8(下地)	1.9(下地)	1.9(下地)	1.8(下地)	1.5(下地)	2.0(下地)	0.8(界面)	
	21日	2.1(下地)	2.0(下地)	2.1(下地)	2.0(下地)	1.5(下地)	2.2(下地)	0.8(界面)	
28日	2.2(下地)	2.1(下地)	2.1(下地)	2.2(下地)	1.6(下地)	2.6(下地)	1.4(下地)		
接 着 耐 久 性 (N/mm <sup>2</sup> )	28日	1.7(下地)	1.5(下地)	1.5(下地)	1.8(下地)	1.4(下地)	1.9(下地)	1.0(界面)	JIS A 1171 (20°C、 60%養生)
引 張 強 さ (N/mm <sup>2</sup> )	28日	4.2	4.0	5.0	4.0	3.5	3.6	2.8	ASTM C 190 (20°C、 60%養生)
吸 水 率 (%)	28日	1.8	1.4	0.6	2.0	2.2	3.0	7.9	JIS A 1171、 48時間 (20°C、 60%養生)
透 水 量 (g)	28日	1	1	1	2	2	4	11	JIS A 1171、 100kPa、 1時間(20°C、60%養生)
長 さ 変 化 率 (%)	28日	0.082	0.089	0.064	0.091	0.034	0.019	0.473	JIS A 1171
摩 耗 減 量 (g)	28日	7.0	6.0	4.6	6.8	10.0	2.2	13.9	JIS K 7204、 H-22、 1kg
凍 結 融 解 対 対 する 抵 抗 性 (%)	28日	—	—	—	—	76	86	崩壊	JIS A 1171、 200サイ クル
耐 屈 曲 性 (°)	28日	90	90	10	100	—	—	2	JIS K 5600-5-1

※セメントモルタルの配合は、JIS R 5201(セメントの物理試験方法)に規定するセメント：標準砂=1：3、水セメント比50%とした。

※接着強さ、接着耐久性および耐屈曲性は、各フィラー配合ごとに設定している最大厚みで試験した、なお、F-FとF-Kは10mmとした。

※接着強さの破壊状況：下地…下地の母材破壊、配合名…各材料の母材破壊、Mo…セメントとモルタルの母材破壊、界面…下地とセメントモルタルの母材破壊



●アロンカチオクリートベースのJIS A 6203(セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂)による評価結果

調 合 (g)				フロー値	単位容積質量 (kg/ℓ)
セメント	標準砂	カチオクリートベース	水		
450	1350	98.9	85	169	1.94

試験の種類	項目	試験結果	品質基準
ディスパージョンの試験	外 観	異物、凝固物はなし	異物、凝固物がないこと
	不揮発分 (%)	45.5	35.0以上
ポリマーセメントモルタルの試験	曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )	10.8	8.0以上
	圧縮強さ (N/mm <sup>2</sup> )	44.8	24.0以上
	接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	2.5	1.0以上
	吸水率 (%)	1.0	10.0以下
	透水量 (g)	1	15以下
	長さ変化率 (%)	0.042	0~0.150以下

※(財)建材試験センターでの試験結果 [第07A1936]

●アロンカチオクリートのJIS A 6916(建築用下地調整塗材)による評価結果

	F-0	F-1	F-2	F-3	F-F	F-K	JIS による品質基準					
							C-1	C-2	CM-1	CM-2		
塗厚 (mm)	3以下	3以下	5以下	3以下	5~30	10~50	0.5~1	1~3	3~10	3~10		
適用可能下地	ALCパネル コンクリート	ALCパネル コンクリート	ALCパネル コンクリート	ALCパネル コンクリート	ALCパネル コンクリート	ALCパネル コンクリート	ALCパネル コンクリート	コンクリート	ALCパネル コンクリート	コンクリート		
施工方法	吹付け こて塗り	こて塗り	こて塗り	こて塗り ローラー 塗り	こて塗り	こて塗り	吹付け こて塗り	こて塗り	吹付け こて塗り	吹付け こて塗り		
軟度変化 (%)	10.8	6.9	9.9	8.5	14.3	4.3	-20~20	-20~20	-20~20	-20~20		
耐ひび割れ性	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	ひび割れがないこと					
耐衝撃性	W2-500,30cm	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	ひび割れ及びひはがれがないこと					
	W2-1000,50cm	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし						
曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )	11.6	13.0	14.0	9.7	9.3	8.5	-	-	3.0以上	5.0以上		
圧縮強さ (N/mm <sup>2</sup> )	53.9	51.8	50.6	45.5	30.1	30.8	-	-	5.0以上	10.0以上		
付着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	標準 (20℃) 養生	14日養生	1.8(下地)	2.0(下地)	1.9(下地)	1.9(下地)	1.5(下地)	2.0(下地)	0.7以上	1.0以上	-	-
		28日養生	2.2(下地)	2.1(下地)	2.1(下地)	2.2(下地)	1.6(下地)	2.6(下地)	-	-	0.7以上	1.0以上
	低温(3℃)養生	28日養生	1.6(下地)	2.1(下地)	1.8(下地)	1.6(下地)	1.4(F-F)	2.7(下地)	0.5以上	0.7以上	0.5以上	0.7以上
吸水量 (g)	0.2	0.2	0.1	0.2	1.0	0.2	2以下	1以下	2以下	2以下		
透水量 (ml/h)	0.8	0.8	0.6	0.8	1.2	0.8	-	-	1以下	0.5以下		
長さ変化 (%)	0.08	0.07	0.06	0.09	0.03	0.02	-	-	0.15以下	0.15以下		
複層仕上塗材の 耐久性 (N/mm <sup>2</sup> )	複層塗材E	0.9	1.0	1.0	1.1	0.9	1.0	0.7以上	-	0.7以上	-	
	複層塗材RS	1.3	1.3	1.2	1.5	1.2	1.2	-	1.0以上	-	1.0以上	
陶磁器質タイルの耐久性(N/mm <sup>2</sup> )	-	-	1.2	-	1.1	1.3	-	-	-	0.6以上		
該当種類	C-1	○	○		○							
	C-2	○	○	○	○							
	CM-1			○			○					
	CM-2											

※接着強さおよび接着耐久性は、各フィラー配合ごとに設定している最大塗厚で試験した。なお、F-FとF-Kは10mmとした。  
 ※接着強さの破壊状況：下地…下地の母材破壊、配合名…各材料の母材破壊

●各種下地に対する接着性(アロンカチオクリートF-0)

	接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	破壊状況	試験方法
コンクリート	2.0	下地母材	28日 20℃、60%養生
フレキシブル板	1.0	下地母材	
ALCパネル	0.5	下地母材	
鋼板	1.5	F-0母材	
銅板	1.4	F-0母材	
ステンレス	1.6	F-0母材	
亜鉛引き鋼板	1.6	F-0母材	
ガラス板	1.6	界面	
磁器タイル	1.9	F-0母材	
硬質塩ビ	1.0	界面	
砂付アスファルト	0.5	下地母材	
ポリスチレンフォーム	0.2	下地母材	

※接着強さの破壊状況：下地…下地の母材破壊、F-0…F-0の母材破壊、界面…下地とF-0の母材破壊

●アロンカチオクリートベースの吸水調整材としての評価結果

アロンカチオクリートベースを吸水調整材として使用する場合には、3～5倍希釈して使用して下さい。

希釈倍率		原液	2倍希釈	3倍希釈	5倍希釈	未塗布
不揮発分 (%)		45	23	15	9	—
接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	養生後	1.9 (下地)	2.5 (下地)	2.4 (下地)	2.4 (下地)	2.0 (下地)
	耐久性	1.6 (下地)	1.7 (下地)	1.8 (下地)	1.6 (下地)	1.4 (下地)

※モルタル板に各希釈倍率のアロンカチオクリートベースを0.15kg/m<sup>2</sup>塗布し、乾燥後、アロンカチオクリートF-0を6.0kg/m<sup>2</sup>塗布した。アロンカチオクリートベース塗布から7日養生までは35℃で行い、その後、21日20℃、60%養生した。なお、接着耐久性試験は、JISA1171に準拠した。

●鉄筋に対する防せい性能(アロンカチオクリートF-3)

補修材		発せい率(%)		防せい率(%)	
鉄筋防せい材	断面修復材	未処理部	防せい処理部	未処理部	防せい処理部
カチオクリートF-3	カチオクリート厚付	17.4	6.4	9.4	66.7
—	セメントモルタル	19.2		—	—
基準値		—	—	—10以上	50以上

※鉄筋コンクリート造建築物の耐久性調査・診断および補修指針(案)・同解説(日本建築学会) 付1.3 鉄筋コンクリート補修用防せい材の品質基準(案)防せい性試験

●中性化防止性能

	中性化深さ(mm)	配合	試験方法
アロンカチオクリート	3	JIS A 6203(セメント：標準砂=1：3、ポリマーセメント比10%)	JIS A 1171
セメントモルタル	7	JIS R 5201(セメント：標準砂=1：3、水セメント比50%)	



## 7. 注意事項

### (1) 材料保管上の注意事項

- 1) アロンカチオクリートベースは、水系エマルジョンであるため雨露、直射日光を避け、気温が0℃以下にならない場所に保管し、開缶後は密封し、できるだけ早くご使用下さい。
- 2) アロンカチオクリートフィラーは、セメントが入っているため、水分との接触をさけ、風通しがよく乾燥した場所に保管し、開封後はできるだけ早く使用して下さい。
- 3) 子供の手の届かない所に保管して下さい。

### (2) 取り扱い上の注意事項

- 1) 取り扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、適切な保護具を着用して下さい。
- 2) 取り扱い後は、顔、手、足等を石けん水で十分に洗い、うがいを行って下さい。
- 3) 本材を廃棄する場合は、産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。
- 4) 本材は指定された材料との混合や本来の用途意外に使用しないで下さい。

### (3) 練混ぜ上の注意事項

- 1) 練混ぜしたアロンカチオクリートの可<sup>レ</sup>使用時間は夏期約30分、冬期約60分程度を目安にして、この時間内に使い切る量を練混ぜして下さい。
- 2) 練り置きしたアロンカチオクリートに新たに練混ぜしたアロンカチオクリートを混合しないで下さい。
- 3) 過剰な水希釈は、ひび割れ発生の原因となるため、水希釈は所定範囲内にして下さい。

### (4) 施工上の注意事項

- 1) アロンカチオクリート施工後にプライマーを塗布する場合には、アロン水性プライマーを使用して下さい。溶剤形プライマーを使用するとアロンカチオクリートの接着強さが発現し難くなります。なお、溶剤形プライマーを塗布する場合は、アロンカチオクリート塗布後夏期2日、冬期5～6日以上養生して下さい。また、溶剤形プライマーは標準使用量よりも少なめとして下さい。
- 2) 気温5℃以下での使用は避けて下さい。  
硬化前に降雨が予想される場合は施工を避けて下さい。硬化不良、強度不足を起こす場合があります。
- 3) 下地面の清掃  
脆弱部、塵埃、油脂などはあらかじめワイヤーブラシなどで取除き、高圧水洗等により清掃して下さい。
- 4) 吹付け（アロンカチオクリートF-0）
  - ・吹付け機としては、スクイズ式圧送機が好ましくかつエア吹きとして下さい。
  - ・マイティスプレイヤーなどエアレス吹付け機を用いる場合は、珪砂を使用しているため機械の損耗も早く、保守管理に充分注意して下さい。カップガン等による吹付けには、モルタルガン等を使用し、コンプレッサーは20HP以上を使用して下さい。
- 5) 施工機械器具類は、使用後は直ちに水清掃して下さい。（反応硬化型の材料であるため硬化すると除去することが困難になります）

## 8. 使用材料一覧

商品名	性状	荷姿
アロンカチオクリートベース	カチオン性アクリル樹脂エマルジョン、乳白色液体	16kg/缶
アロンカチオクリートF-0	既調合セメントフィラー、灰白色粉体	20kg/袋
アロンカチオクリートF-1	既調合セメントフィラー、灰白色粉体(ガラス繊維)	20kg/袋
アロンカチオクリートF-2	既調合セメントフィラー、灰白色粉体	20kg/袋
アロンカチオクリートF-3	既調合セメントフィラー、灰白色粉体	20kg/袋
アロンカチオクリートF-F	既調合セメントフィラー、灰白色粉体(軽量骨材)	15kg/袋
アロンカチオクリートF-K	既調合セメントフィラー、灰白色粉体(軽量骨材、ガラス繊維)	15kg/袋

- 本カタログ内のデータは実験値であり、保証値ではありません。
- 各使用材料を実際に調合および施工する場合には、使用者の責任において、当社発行の資料などに従って下さい。



### 東亜合成株式会社 建材・土木グループ

お問い合わせ / <http://www.toagosei.co.jp/>

本店営業部	〒105-8419 東京都港区西新橋1-14-1	TEL:03(3597)7342 (ダイヤルイン)
大阪支店	〒530-0005 大阪市北区中之島3-3-3	TEL:06(6446)6568 (ダイヤルイン)
名古屋支店	〒460-0003 名古屋市中区錦1-4-6	TEL:052(209)8594 (ダイヤルイン)
四国営業所	〒762-0004 坂出市昭和町2-4-1	TEL:0877(46)3300 (代表)
福岡営業所	〒810-0001 福岡市中央区天神2-14-2	TEL:092(721)1902 (代表)
札幌出張所	〒060-0807 札幌市北区北七条西4-1-2	TEL:011(757)8733

このカタログに記載の商品は予告なしに仕様や取り扱いを変更することがあります。